

「小泉椿園、穂木採り会」

つくば市 坂上 博

梅雨晴れの6月25日（日）染谷さんにお誘いいただき、挿し木用「穂木採り会」に初めて参加した。これは「茨城つばきの会」の《椿展》にご来場いただいた方々に差し上げる苗木をつくるための重要な年間行事の一つである。会場は幻の椿畑と伝わる小泉事務局長の「小泉椿園」で、染谷さんの車に乗せていただき途中で合流した植竹さんの先導で現地に向かった。私事で恐縮ですが足掛け12年の単身赴任生活を終えた私にとって久々の活動であり、勝手にわからぬままに膝下までの長靴と蚊避けズボンの重装備で楽しく参加させていただいた。

現地には10名の会員が集まり小泉さんご夫妻のお出迎えを受けた。さっそく園内に入るとそこは平均樹高4メートルほどの椿樹林になっており、抜けると休憩の建物と野菜畑が広がり、そこで茶菓のおもてなしをいただいた。

穂木採りは小泉さんのご案内で椿の品種を一つ一つ説明いただき、参加者それぞれが目的の穂木採りの品種を定めることから始まった。園内は私の好きな『藪椿』から「稲負鳥」「鶏の子」などの江戸椿、鹿島灘で採取したピンクの一重、さらにはグランサムやユーシーネンシスなどの原種など

国内外の銘椿までおよそ200種が植栽され、また所々に交配用の袋がけと交配した品種名が札に記されて小泉さんが近年ハイブリッドの育種に傾倒していることを裏付けている。今後の新種発表が楽しみだ。



お茶タイム



交配の袋かけ（孔雀椿）

ここの土壌は椿の生育に適しているものと思われ、14年前の2003年に会の有志7名で名古屋「名城つばき展」に出かけた折、稲沢の佐藤椿園で小泉さんと一緒に『尾張五色椿』を購入したことがあり、その椿が拙宅では未だに1mほどなのに、ここの土地では既に4mほどに成長していた。さらにこの椿園では椿の天敵であるチャドクガの発生もなく消毒の手間がかからないとのこと

で、とても不思議な土地である。

品種説明につづいて穂木採りの段取り説明があり、それぞれが目的の椿に向け木々の中に入っていった。私としては椿展来場者と好きな椿を共有したく、差し上げる苗木用穂木は紅色極小輪で純白蕊の奥出雲侘芯椿『村下』と新潟の代表的雪椿のひとつ『津川紋』を採ることにした。しかしながら挿し木すべてを活着させる自信がなく、椿講習会講師の中山さんに半分を挿していただけることになり少し安心している。



思い思いの品種を切る



椿畑は 20 年を経て椿山に変貌

椿園の真ん中に実生で生えたという山桜の大木があるが、小泉さんは椿の生育上不要であるため近く伐採することを考えているとのこと。桜の名所「吉野」でも椿は桜の添えの木として大切に活かされて、桜のピンクと椿の赤はとても相性が良く美しい。新潟阿賀野川「鹿瀬の雪椿原生地」にも真ん中に桜の大木があるが互いに引き立てあってとても美しい。ぜひ椿と桜の共存を再考いただきたく思います。

園内に自生する琵琶の実を摘みながらの楽しい穂木採りも無事終了し、恐縮にもお土産に採れたての野菜をたくさんいただき、さらに高貴なラピスラズリー色をした美しいアジサイの穂木もいただき帰路についた。・・・あとは挿し木の活着を祈るのみである。